

報
 広
 横
 芝

みなさまに支えられ
 歩みつづけて二〇〇号

広報横芝も今月で二〇〇号を迎えることができました。

これも、町民のみなさまをはじめ、関係各方面の方がたのご指導、ご協力によるものと、紙上をもって改めてお礼申し上げます。

この記念すべき二〇〇号を、ひとつの契機として、今まで以上に読みやすく、親しみやすい、そして身近な話題を掲載した、誰からも愛される広報づくりをまい進していきたいと考えております。

今後とも、ご意見、ご要望、また身近な話題などありましたら、広報係(二一―一一五)までお知らせください。

町政と共に
 二十余年

広報横芝は昭和三十六年十一月に、タブロイド版の創刊号が発行され、四十六年の七月号(第四十六号)から、現在の大きさと同じB5版となり、同時に、隔月発行だったものが毎月発行されるようになりました。

みなさまに支えられ、町の発展とともに歩みつづけた広報横芝、その二〇〇号の記録をふり返ってみましょう。

◆創刊号 36・11・15
 タブロイド版二ペー지의創刊号が発行される。台字は、ひらがな

で「よこしば」と書かれている。

一面のトップに第三回定例議会の記事が、左には、伊藤績夫町長の発刊のあいさつが掲載されている。

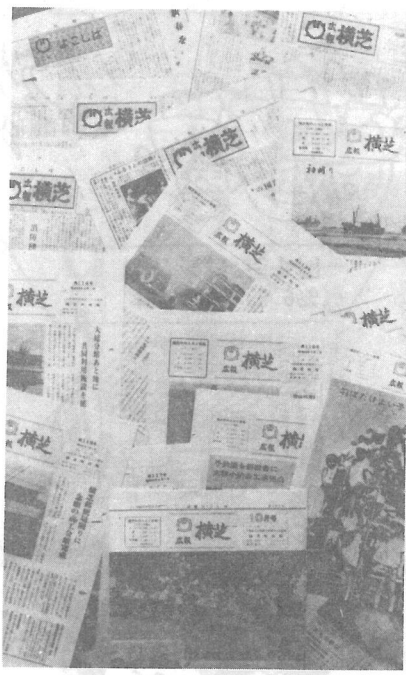
◆第一号 37・3・10
 当時の一般会計当初予算は、六千七百万円余り、人口は、約二万二千八百人であった。

◆第二号 37・6・15
 台字が、ひらがなから漢字の横芝となる。

◆第三号 38・11・15
 役場に建設課が増設される。当時の職員八十五名。

◆第四号 40・11・15
 ふるさとの話題が始まる。

◆第五号 43・9・1
 横芝電報電話局の新舎屋が完成



◆第四三号 43・3・15
 二月に行われた町長選挙で、椎名登氏が当選、就任する。

◆第四六号 43・7・1
 今までタブロイド版であった広報紙が、今月から現在と同じ大きさのB5版になり、月一回の発行となる。台字の「横芝」という文字が手書きのものとなる。役場職員、町史編さん委員として活躍された、伊藤俊さん(神戸市在住)の筆によるもの。

◆第四八号 43・9・1
 横芝電報電話局の新舎屋が完成

◆第五〇号 44・1・1
 八日市場市外三町消防組合消防署横芝分署が四月に完成する。

◆第五二号 46・7・1
 椎名前町長退職にともなう町長選挙が六月に行われ、伊東巖氏が当選、就任する。

◆第五四号 47・7・1
 海のこどもの国が完成、常陸宮ご夫妻をお迎えして、開園式が行われる。

◆第五七号 47・10・1
 横芝の碑が始まる。

◆第六〇号 48・7・1
 養護老人ホーム完成の記事が一

◆第六二号 49・1・1
 横芝小講堂で行われる。町史が発刊される。

し、同時にダイヤル通話となる。横芝俳壇が始まる。

◆第五九号 44・8・1
 広報紙の最後のページに、建設のあゆみの欄が設けられる。

◆第七一号 45・8・1
 故早川侑氏の作曲により、横芝小唄ができ上がる。

◆第八〇号 46・5・1
 八日市場市外三町消防組合消防署横芝分署が四月に完成する。

◆第八二号 46・7・1
 椎名前町長退職にともなう町長選挙が六月に行われ、伊東巖氏が当選、就任する。

◆第九四号 47・7・1
 海のこどもの国が完成、常陸宮ご夫妻をお迎えして、開園式が行われる。

◆第九七号 47・10・1
 横芝の碑が始まる。

◆第一〇六号 48・7・1
 養護老人ホーム完成の記事が一

◆第一〇九号 50・7・1
 無投票により、五代目町長に佐瀬哲司氏当選。

◆第一四七号 51・12・1
 横芝町運動広場が栗山に完成する。

◆第一五八号 52・11・1
 町民のひろばの欄が設けられる。

◆第一九六号 56・1・1
 五十二年から放流を始めたサケが遡上、町民に明るい話題をもたらす。

◆第二〇〇号 56・5・1
 広報横芝が二〇〇号を迎える。

広報「横芝」についての
 ご意見・ご希望を
 お寄せください

ハガキ、または電話(2-1115)で役場広報係までお寄せください。